



チームいちかわが会場を盛り上げました

ハンドボール競技と千葉県選手団の応援団「チームいちかわ」には、3,635人の登録がありました。当日は、チーバくんマフラータオルを首にかけたり、手に持ったりして、熱い声援を送っていました。



成年男子ハーフタイム、チーバ君とダンスする子どもたち。



サッカーチームのみなどで応援に来ました。「近くで見る選手はカッコいい!」



花への水やりはもちろん、プランターをきれいに磨くのも大事な仕事です。



国体のボランティアは、一生に一度出来るかどうかのチャンスなので、友人と参加しました。

各会場で振る舞った「レンピーつくね汁」は、みなさんに「ほっとする味」「歯ごたえが良い」と大好評で、やりがいがありました。と笑顔で話す食生活改善推進員(ヘルスマイト)の皆さん。



大会関連グッズの販売tentをお手伝いしました。チーバくん、大人気ですよ!



地元の大学の卒業生です。いろいろの方との触れ合いが楽しく、参加して良かったです。



多くの市民ボランティアが国体を支えました

「レンピーつくね汁」は、南行徳小学校栄養士の大河原悦子さんが考案した国体おもてなしメニューで、すりおろしたれんこんと鶏肉に千葉特産の落花生(ピーナッツ)が入ったつくねが特長です。レシピは市のホームページでご覧いただけます。



観客の皆さんや報道関係者の受け付けは、忙しいけれど大勢の方に出会えて楽しいです。



JR市川駅で、お客様の誘導をしています。笑顔でお迎えすることを心掛けています。



市民みんなで バックアップしました ゆめ半島千葉国体

「620万市民のおもてなし」により、県民が一丸となって取り組んだゆめ半島千葉国体。市ではより多くの市民の方に参加してもらおうと、準備を進めてきました。選手のサポート、来場者の受け付け、観客の案内から、弁当の引き替え、休憩所でのサービス、会場の清掃まで、市民ボランティアが連日大活躍。その際のスタッフ・ウェアを着て、チームワークで国体をバックアップし成功を支えました。このほかにも会場準備に応援にと、子どもから大人までたくさんの方の皆さんの参加がありました。ここでは、会場の裏側をご紹介します。

子どもたちも応援! 会場でボランティア



会場には市内の小・中学生が、連日応援に駆けつけました。この日は第二中学校の1年生がスティック・バルーンを手に、成年女子の試合を観戦。「ボールの音に迫力があってびっくりしました」「ジャンプ力がすごい!」と興奮した様子でした。また、生徒は清掃や受け付け、ドリンクコーナーなど会場の各所でボランティアも行いました。最初は慣れない作業にとまどう姿も見られましたが、「とっても楽しい!」「いろいろな人に会えてうれしい!」「貴重な経験になった!」と輝くような笑顔で答えてくれました。



花壇にチーバくんを描いて おもてなし

開幕直前の9月27日、国府台体育館正面の花壇に、花で描いた大会マスコットのチーバくんが浮かび上がりました。主に緑の基金で活躍するボランティアの皆さんによる力作です。

「県外からも訪れる多くの方々に、楽しんでほしい」と、冷たい雨の中、図面を見ながら300株以上のサルビアやキンギョソウを並べていきます。苗の高さ、咲きごろを見分けながらの手早い作業は、花を知り尽くしたベテランならでは。

「おもてなしの心を次の世代に伝えたい」との思いを込めて、大会終了後、花は市内の幼稚園に無料で配布されました。



炬火(きよか)トーチをデザインした市川工業高校インテリア科の生徒たちが、自主的に看板などを製作しました。この場所で記念撮影する人を多く見かけました。

会場の周辺では、市内の小・中学生による各県を応援するのぼり旗が花を添えました。どれもアイデアいっぱい、見ごたえがありました。

